

今回、市区町村の事業に移行するのは通所介護と訪問介護に限られるが、改革の背景には介護保険財政の健全化がある。改革のメリットとして、市区町村の状況に即したサービスを提供できる点があげられる。

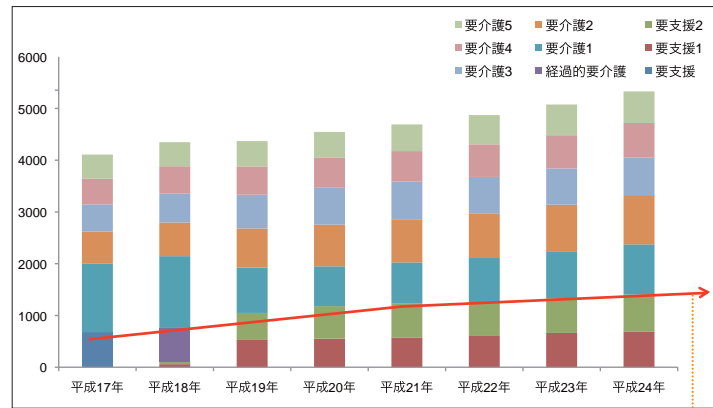
「例えば雪国ならば雪かきのサービスができ、それが外出をうながし運動機能が保てるなどの効果があります。それぞれの地域の人の切実な支援を提供できます」

しかしサービス内容は、自治体の財政事情、担当者のやる気や能力によって差が生じやすい。「今回の改革の最大の問題は、地域格差が出やすく、全国どこでも同じサービスを受けられるという介護保険の理念は後退することになります」

厚生労働省は今後、年に5〜6%増と推計される要支援者の介護費用



要支援認定者数の推移(単位:千人)



出典：厚生労働省「介護保険事業状況報告」

軽度者(要支援1,2)が増加傾向に



結城康博(ゆうきやすひろ)氏

淑徳大学総合福祉学部教授
淑徳大学社会福祉学部卒。法政大学大学院博士課程修了(政治学博士)。社会福祉士、介護福祉士。地域包括支援センターなどで勤務経験がある。厚生労働省社会保障審議会介護保険部会委員を務める。

ヘルパー支援なく重症化が心配
危惧されるのは、ヘルパーの助けを得ながらようやく自立した生活を送っている高齢者だ。「ヘルパーの援助が削られることで重症化するおそれがあります。それにデイサービスも軽度の人には貴重な介護予防です。これらを削ることで短期的な予算圧縮を狙うより、要支援にお金をかけて介護予防をし、重症化を防いだほうが長期的には予算の健全化につながると思います」

こういう状況では、何とかして要介護認定を受けようとする人が出てこないか。また現行の要支援サービスは医師なども関わる要介護認定を受け

を、3〜4%増にしたいと考えた。その予算の中で市区町村は事業を運営することに悩む。

「財政の厳しい自治体では、介護に財源を持ち出したくないため、以前提供できたサービスを中止せざるを得ないケースも出てくるでしょう」

結城氏が首をかしげることはまだある。予算が足りない分、ボランティアを積極活用する方針が今回の改革の中心に据えられている点だ。

「ボランティアは本来補完的なものだし、確保できる人の数に地域差があります。またプロではないので、利用者のプライバシーを守るのが気になる点です」

いま介護業界で議論を呼んでいるのが、軽度の「要支援1、要支援2」を介護保険の給付から切り離し、自治体の事業に移行する改革案だ。しかし、サービスに地域格差が出るのが危惧されている。改革の背景、問題点を、本改革の審議委員でもある淑徳大学の結城康博教授に聞いた。

どうなる？ 要支援の給付切り離し 自治体でサービスに格差が出るおそれ

て初めて利用できるが、今回の改革では、25項目のアンケートに本人が記入するだけというハードルの低さゆえ、「家政婦的」に訪問介護サービスを利用するモラルハザードが起きる懸念もある。これが現実になれば改革の意味が薄れる。

「ボランティヤアは本来補完的なものだし、確保できる人の数に地域差があります。またプロではないので、利用者のプライバシーを守るのが気になる点です」

改革内容の発表は今夏だが、大筋は以上述べてきたものになる模様。完全移行は平成30年度で、それまでは準備期間だ。「限られた予算で介護事業所も運営が大変だが、自治体と連携し、利用者の視点で知恵を出し合えば、新しいサービスが生まれる可能性があります」

(文・西所正道)

「数日前までデイサービスセンターでの実習だったのですが、ご利用者の方に『最近の若い人の名前は難しいね』と言われ、それがお話をしているときかけになりました」

笑顔で語ってくれたのは、東京医療保健大学(東京)が丘看護学部に通う泉水静紀さん。

2年次に老年看護学を学び、2週間の介護実習に参加しました。

「成人と高齢者では、様々な点でアプローチの仕方が異なります。例えば、ちょっとした血圧の変化も、年齢によるものか病気によるものなのか、などを慎重に考えなければいけません。実習で日常的に高齢の方と接することができるとは、とても参考になります」

実際に、どんな体験をしたのでしょうか。

「実習では通所やリハビリに意欲が湧かないという方を担当しました。毎日お話をしてその方のことを少しずつ理解し、リハビリなどを楽しんでもらえそうなメニューを考えました。すると、実習の最終日にその方から『これからは通所やリハビリに自分から参加できそう』と言っていただけました。看護では、回復へ前向きになってもらうことが大切ですが、そのお手伝いができたことに、感無量でした。実習を通して、相手に寄り添う看護、ということを理解できたと思います」

注目のトピックス

多摩地区で男性介護者情報交換の場
働き盛りや退職後の男性介護者が仕事との両立の難しさ、孤立化といった問題を共有する場が多摩地区で始まっている。立川市や国分寺市などの地域包括支援センターが主催し、社会福祉士も参加する。
2014/2/22 読売新聞

介護福祉士の取得条件厳格化1年延期
国家資格の介護福祉士について、厚生労働省は2015年4月から資格の取得条件を厳しくする予定だったが、1年間延期し、2016年度からとする考えを明らかにした。
2014/2/23 NHK 社会ニュース

介護の現場を体験 私の眼

介護実習を通して 老年看護の在り方を学ぶ

◎東京医療保健大学(東京都)

「実習では通所やリハビリに意欲が湧かないという方を担当しました。毎日お話をしてその方のことを少しずつ理解し、リハビリなどを楽しんでもらえそうなメニューを考えました。すると、実習の最終日にその方から『これからは通所やリハビリに自分から参加できそう』と言っていただけました。看護では、回復へ前向きになってもらうことが大切ですが、そのお手伝いができたことに、感無量でした。実習を通して、相手に寄り添う看護、ということを理解できたと思います」

人と接する専門職を選んだ泉水さん

おむつ塾 便利 Vol.2 プロの技“クロス留め”ができる!

(王子ネピア ケアサポート事業本部)

お世話をする人、される人。どちらの人もより快適に、経済的に紙おむつを使えるように、王子ネピア ケアサポート事業本部は出張教室「ネピアテンドーおむつ塾」を開いています。参加されたみなさんの関心が高かった話題を「おむつ塾便利」としてご紹介します。

おむつには3つの種類があります。インナーとして使うパッド。下着のようにはくことができるパンツタイプ。そして、体形や体勢に合わせて調節できるテープタイプは、日中もベッドで過ごすことが多く、介護が必要な方に向いています。

ネピアテンドーの「幅広テープ」には、王子ネピアの特許技術が盛り込まれています。左右にある上下2本に独立したテープ(写真①)は幅が広く、しっかり固定できて、何度でも留めなおすことが可能です。さらにテープ同士が重なっても留めることができます。モレを防ぐプロの技“クロス留め”も簡単。つけ心地がよくなるこのコツを覚えましょう。

【クロス留めとは?】
写真②のように平行に留めるのではなく、下のテープを斜め上、上のテープは斜め下に向けて、クロスさせるイメージで留めます(写真③)。下のテープを斜め上へと引っ張ることで足の可動域が広がり、転倒防止につながります。上のテープを腰骨にしっかりかけて、斜め下に向けて留めることで、吸収した尿の重さでおむつがずれるのを防ぎます。

留めるときには、テープの先を引っ張って締め付けようとせず、テープの幅を活かして、広く「面」で引き寄せるようにするのがコツ。こうすると身体のラインに沿った自然な位置でぴったり留めることができます。

写真は、おむつ塾マネージャーの磯山佳与子さん

【ここに注意】上下のテープを平行に留めると、足の付け根が締めつけられて動きにくいだけでなく、太ももまわりがおむつにこすれて、皮膚トラブルの原因に(写真④)。また背中側にすきまができやすく、ここから漏れてしまうことがあります(写真⑤)

介護事業は「地域貢献」です

吉田 林業というのは、地域の方々の協力なくしては成り立たない事業です。様々な面で支えてくださった郷土に何か恩返しをしたい、と私の父が考えたのがきっかけでした。父は祖父が倒れた際に自宅介護をした経験があり、介護の大変さや施設の必要性を理解していました。そんな父の考えもあり、介護事業に携わるようになりました。

清水 強い郷土愛を感じてお話をすね。

吉田 現在は秩父市内で特別養護老人ホームを4か所、ケアホームとグループホームを1か所ずつ運営しています。各施設で働く職員も、施設周辺の地域の方々を雇用しています。急な呼び出し

埼玉県秩父市を中心に、地域に根差した高齢者福祉事業を展開する秩父正峰会。王子ネピア社長の清水紀暁が、同法人理事長の吉田廣文氏に地域密着型介護の在り方を伺いました。

清水 こちらに伺う前に、施設の周りを拝見したのですが、木々に囲まれ空気が澄んでいる。素晴らしい環境ですね。

吉田 秋の紅葉などは本当に見事なものです。私どもは、もともと林業に携わっていたので、山々に囲まれた自然にはこだわりがあります。

清水 古くから続く篤林家深い造詣を持つ熱心な林業家の家系と伺いました。なぜ、異業種の介護事業に携わるようになったのでしょうか？

地域密着ならではの柔軟な介護

清水 新設される施設は複合施設だそうですね。

吉田 すでにあるグループホーム、有料老人ホーム、デイサービスセンターに、地域に密着した特養などを併設した複合施設です。地域の高齢者の方々はその家に愛着があり、「通い」は利用したいが、「居住」は避けたいという方も多くいらっしゃいます。とはいえ、事情があって泊まりが必要になることもあり、そうした場合に複合施設で



などにも快く対応してくれますし、大雪で出勤が大変なときにもきちんと出てくれ、人に恵まれていると感じています。

あれは柔軟に対応することができると言えます。

清水 ご利用者様にとっては、使い方を学ぶことができないのは大きなメリットですね。

吉田 また、夜間対応型訪問介護もできます。人が集まっている都市部と違い、このあたりでは家も離れていて、夜間に何かあったとき、私どものような施設が対応することがとても重要になってくるのです。

清水 ご利用者様のための地域密着型介護を考えると、複合施設が最適だったのですね。保育園も併設される予定だと聞きました。

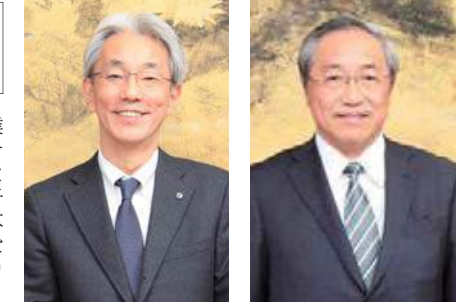
吉田 そうです。施設の職員には子育てをしながら働いている人もいま

す。小さなお子さんがいても安心して仕事に取り組める環境を作らなければ、介護サービスに関わる人材を発掘、育成することはできません。秩父でも今、介護業界は非常に注目されていますから、私どものように地域に根差した施設が率先してサービスの向上や、働きやすい環境を作っていくということが必要だと考えています。

清水 介護サービスを通し、様々な形で地域に貢献するのは、素晴らしいことだと思います。王子ネピアでもCSR活動に積極的に取り組んでいますが、秩父正峰会のごこうした活動姿勢には共感を覚えます。本日はありがとうございました。

王子ネピア株式会社
代表取締役社長
清水 紀暁

「衛生用紙メーカーとして、林業から地域密着介護へアプローチしている吉田理事長のお話はとても興味深いものでした。王子ホールディングスでは未利用木材をボイラーで燃やして電力を得る木質バイオマス発電に取り組んでおります」



社会福祉法人
秩父正峰会 理事長
吉田 廣文氏

埼玉県森林組合連合会会長代理(副会長)を兼ねる。「木材の良さを感じていただけるよう、新設する施設は木材を多く取り入れ、既存施設改修にも木材使用で温もりを演出しています。介護から林業の活性化につなげるよう努めています」

脳のアンチエイジング

出題＝公益財団法人 日本数学検定協会

想像力を駆使して、脳をマッサージ！

問題
図のような穴のあいた、厚いブロックがあります。穴の形は正方形と円で、正方形の1辺の長さと同じです。さて、2つの穴を完全にふさぐために、栓を2つ用意しました。栓は2つとも全く同じ形で、弾力性のない素材でできています。さて、どんな形の栓なのでしょう？

今回は初めての空間図形の問題で、脳を刺激します。ウォーミングアップとして、ブロックを手にとった感じを想像してみましょう。材質の硬さもイメージしてみてください。

答え 正方形の穴に正方形の栓、円形の穴に円形の栓を入れます。

なんでもやってみよう!!

ケアサポート事業本部 広域法人部

広域法人部は、読んで字のごとく幅広くいろいろな方と商談をさせていただきます。全国行ける所はどこへでも馳せ参じます。現在は有料老人ホーム様、グループホーム様を中心に各施設へ訪問させていただいているほか、在宅介護に関係する分野のお得意先様とも多様な取り組みを行っております。介護現場での様々な支援ができるように、また紙おむつを快適にご利用いただけるように、弊社の「おむつ塾」とも連携し全力でお手伝いいたします。

気づけば変わる! 楽ラク心身術

耳ケアで頭がすっきり

① 左右の耳をつかんで、頭から離すように引っ張ります。やさし指を耳の穴に入れ、親指を耳の後ろにあてがって、付け根からしっかりとつかみ、真横に引っ張りながら息を吸い、指を離しながら息を吐きます。吸うほうに時間をかけてください。引っ張る力は、「ちょっと痛い」程度。3回繰り返します。

② 両手でじゃんけんのチョキをつくり、両耳を下から切るような形で、やさし指と中指の間に耳の付け根をしっかりとさみませます。はさんだ耳で側頭部に円を描くようにマッサージ。息を吸いながら、5回行い、指を離しながら息を吐きます。反対側でも5回。

③ 両手の親指を耳たぶの裏に、やさし指を耳の上部の裏側に当て、両方の指で耳を上下にたたくようにつまみます。息を吸いながらつまみ、吐きながら離す、を数回繰り返します。

社員ボランティアレポート

ネピアテングー被災地高齢者支援活動 支える人を支えよう!

福島で多くのことを学びました

ケアサポート事業本部 大阪支店 清水裕喜

2月13日から15日までの3日間、CSR活動のサポートスタッフとして、「まごころサービス福島センター」でボランティア活動を行いました。

初日は、月1回のミニサービスのご利用者を対象としたなつかしい「男はつらいよ第1回」映画鑑賞会などの準備片づけをお手伝い。ご利用者の笑い声の絶えない有意義な時間になったと思います。その後、仮設住宅を訪問。「震災直後どのように笑ったらよいかかわらなかつた」とのお話には心が痛みました。

2日目はご利用者と話をしたり、歌を歌ったり、ゲームをしたりしたほか、昼食を共にしました。元気な方が多く、とてもよく笑い、よく動き、よく食べ、逆に私のほうがパワーをいただいた気分でした。午後から翌日に行う「オシャレ撮影会」の準備を手伝い、前日は別の仮設住宅を訪問。そのとき、たまたま巡回していた警察官にお話を聞くことができました。震災の状況を知り、希望して1年の約束で赴任したけれど、もっと協力したいということで3年目に入ったと聞いて、非常に感銘を受けました。

最終日の「オシャレ撮影会」は大雪のため中止となったのですが、その連絡がつかなかった方の息子さんから「今向かっているで母親の写真を撮っていただけませんか」と電話が入りました。職員の方たちは快く撮影会を行いました。お母様と息子さんは非常によい笑顔で写られ、本当によかったと思います。

今回の活動は、それまで抱いていた被災地に対する思いや自分自身の仕事を見直すいい機会となりました。1日1日を大切に、自分の行動が少しずつでも多くの方に感謝され、笑顔の源になれるように励んでいきたいです。